

鳥取県環境学術研究等振興事業費補助金研究実績報告書

研究期間（1年目/ 3年間）

研究者 又は 研究代表者	氏名	おおつき ひとし 大槻 均
	所属研究機関 部局・職	鳥取大学医学部・准教授 電話番号 0859-38-6093 電子メールlotsuki@med.tottori-u.ac.jp
鳥取県東部地域におけるマダニ類の保有病原体調査と新規診断法の開発		
研究結果	<p>岩美町の日本紅斑熱患者居住地付近において1回のマダニの採取を行ない、成ダニおよび幼ダニを採取し、同定を試みた。</p> <p>米子市において8月および9月に日本紅斑熱患者が発生したため、患者の居住地周辺において3回のマダニ採取を行った。複数の若ダニと幼ダニを採取し同定を試みている。</p> <p>また、主治医の許可を得て入院中の日本紅斑熱患者に面談し、発症前の行動範囲等について聞き取りを行った。また患者発生家庭を訪問し、状況の聞き取りと自宅敷地内でのマダニの採取を試みた。自宅敷地からはマダニは発見されなかった。</p> <p>また、検出のための陽性コントロールとして、県衛生環境研究所より患者から分離された日本紅斑熱リケッチアのゲノムDNAの提供を受けた。採取したマダニからゲノムDNAを抽出して日本紅斑熱リケッチアの検出のためのPCRを行い、陽性の反応を得た。</p>	
研究成果	<p>岩美町および米子市から捕獲されたマダニより抽出したゲノムDNAを用いてPCR増幅したところ、岩美町の1箇所および米子市の2箇所で採取されたマダニ幼虫から日本紅斑熱リケッチアのバンドが増幅され、これらのマダニがリケッチアを保有する事が示された。</p>	
次年度研究計画	<p>県内の遠く隔たった2地点で採取された日本紅斑熱リケッチアについて、これらが同一のものであるかが大きな問題となる。そこで遺伝子配列の比較によってこれらの相同性を探索する。</p> <p>また、2017年度に患者の発生した地域でのマダニ採集と日本紅斑熱リケッチアの保有状況を引き続き調査する。</p> <p>日本紅斑熱リケッチア由来の組換えタンパク質を作成し、患者血清との反応性を比較する事で、血清診断に用いる事の出来る抗原作製に取り組む。</p>	
報告責任者	所属・職 氏名	鳥取大学 研究推進部 研究推進課 研究助成係 高田 志保 電話番号 0857-31-5494 電子メール ken-jyosei@ml.adm.tottori-u.ac.jp

- 注1) 表題には、環境創造部門、地域振興部門、北東アジア学術交流部門のいずれかを記載すること。
- 2) 「研究期間（ 年目/ 年間）」及び「次年度研究計画」は、環境創造部門及び地域振興部門において記載すること。
- 3) 研究者の知的財産権などに関する内容等で、非公開としたい部分は、罫線で囲うなど明確にし、その理由を記すこと。
- 4) 研究実績のサマリー及び図表資料を併せて提出すること。